

よみがえる

紫香楽宮

宮町遺跡

宮町地区の方が大きな柱根を保管しているとの情報が寄せられ、保管主の話からその頃に行われた水田区画整備工事現場で発見し、自宅で保管していたが、もう数日遅ければ、焚付材料にでもしようと考えていたとのことでした。

保管されていた柱根は3本あり、いず

れも直径が30〜40cmもある立派なもので、古代の大規模建物の建築部材であることは明らかでした。

このことを機会として周辺を調べると広範囲に奈良時代の土器が見つかったため、昭和59年から遺跡範囲や性格を確認するために宮町遺跡の発掘調査がスタートしました。

さらに、昭和60年には「年輪年代測定法」という分析調査が行われ、最初に出土した柱根の伐採年代が紫香楽宮造営

期に一致する天平13年(742)秋から14年冬であることが判明し、宮町遺跡が紫香楽宮跡関連遺跡であることが決定的となりました。

これまで20年の調査で盆地のほぼ全域にあたる60万㎡の範囲で遺構が確認され、その内、紫香楽宮に関連する遺構は盆地北半の500m四方に限定されています。



紫香楽宮全景

宮町遺跡の追加史跡指定範囲

